

かお・人・interview

2025年10月8日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
佐賀国道事務所 所長

猪狩 名人氏

IGARI Meito

佐賀国道事務所は、佐賀県で唯一の道路系直轄事務所として、「安全最優先」の理念のもと、県・市町村、すべて関係機関と強く連携し、地域住民が安心して暮らせる利便性の高い道路整備を目指し社会に貢献する。その一環として、令和8年度内の4車線開通を目指す鳥栖拡幅は渋滞緩和に期待がかかる。現在取り組んでいる事業や課題について猪狩名人所長に話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

この度、35年にわたり各地で経験を重ね、初めて佐賀県で勤務することとなりました。地域の皆様が安心して暮らせる社会作りに貢献することが私の重要な使命だと感じています。道路整備は経済発展や住民の利便性につながりますが、最も重視すべきなのは人命の安全です。インフラはどれほど最新の基準で整備しても必ず劣化していきます。絶対に壊れない構造物を造ることはできないため、重大な事故や致命的な損傷等の発生を未然に防止するメンテナンスサイクルの確立を最優先に取り組みます。そのために今できることは、蓄積した知識や経験を活かし、従来の事後保全型から予防保全型への早期転換を図っていくことです。完成当初の状態に近づけるような補修や、必要に応じて機能を強化することで、構造物の健全性を確保します。

また、何事にも「できない理由」ではなく、「できる方法」を常に考え、課題解決に取り組んでいきたいと考えています。「安全最優先」の理念のもと、県・市町村、すべての自治体や関係機関と強く連携し、一つでも多くのご期待に応えられるよう努めて参ります。



▲伊万里道路の進捗状況（府招上地区）

Q佐賀県や九州地区とのかかわり

佐賀県での勤務は初めてですが、プライベートでは観光や山登りでよく訪れていた馴染みのある土地です。仕事面では、令和3年水害（冠水）の際に道路部道路管理課の防災室で数日間カメラ映像を監視していたのが記憶に新しいところです。また、不思議な縁を感じているのが、現在修繕代行事業として取り組んでいる呼子大橋の補修



です。九州道路メンテナンスセンターに勤務していた時は支援の立場でしたが、今は主務として直接携わっております。これまでの経験で培った知識や知見を活かすため、さまざまな事業に挑戦している佐賀県に配属されたのだと思っています。

Q 当事務所の紹介(事業内容、組織、特徴)

佐賀国道事務所は、昭和7年に国道34号の改良工事を担当する事務所として設置された佐賀県内における唯一の道路系直轄事務所であり、現在、西九州自動車道や主要国道の改築8事業、交差点改良や歩道設置などの交通安全対策9事業、防災・通行空間の機能向上のため無電柱化を推進する電線共同溝3事業と国道7路線約233kmの維持管理などの業務を事務所幹部、9課、3出張所総勢約90名(期間業務職員含む)で行っています。

また、当事務所の活性化を図る「ライブサガ」という取り組みを実施しており、研修教育部会では現場見学会等を企画。職場環境改善部会では職場環境の改善提案をしています。特に広報活動については、若手職員が主体的に案を作成し、上司のチェックを経て発信する体制を整えています。各部会が自主的に活動することで、職員の意欲向上と業務効率化につながっています。

Q 今年度の事業概要

西九州自動車道は、福岡市を起点として唐津市・伊

万里市・松浦市・佐世保市を經由して武雄市に至る高規格幹線道路であり、九州北西部の地域経済の活性化、高速定時性の確保等に大きく貢献する自動車専用道路として整備を進めており、現在は、「伊万里道路」の伊万里東府招IC～伊万里西IC(仮称)間と「伊万里松浦道路」の伊万里西IC(仮称)～山代久原IC間について事業を推進しています。

また、西九州自動車道・九州横断自動車道・有明海沿岸道路を繋ぎ、九州佐賀国際空港や唐津港などの広域交通拠点と連絡する役割を担う佐賀唐津道路についても事業を推進して参ります。

その他改築事業として、国道3号鳥栖拡幅、鳥栖久留米道路、国道34号神崎佐賀拡幅、武雄バイパス、国道202号唐津バイパス整備を行っていますが、特に令和8年度内の4車線開通を目指している国道3号鳥栖拡幅については、一日も早い開通に向け工事を推進して参ります。

さらには、唐津市が管理する特殊橋梁「呼子大橋」について、引き続き国が修繕を代行して補修を行っているところです。現場で様々なデータを取得しながら補修を進める手法は、他に類を見ない取り組みです。同種の工事が将来発生した際には、呼子大橋の事例が参考になる可能性も十分にあります。

Q 地域との連携・協働について

九州では、平成16年より実に20年以上の間、地域団

鳥栖拡幅の整備により、物流の効率化が期待



体など民と行政とが協働して、道路清掃や花壇の整備などを行う「道守活動」を各県で行っており、佐賀県においても「佐賀城下ひなまつり」や「さが桜マラソン」開催時に「おもてなし清掃」などの活動を実施いただいています。今後も自治体やボランティア・サポート・プログラムの参加者のほか、さまざまな地域や企業の皆様とよりよい地域づくりや防災力の向上を目指し、より一層の連携を図っていきたいと考えております。

と、地域社会や経済活動を支える「地域の守り手」として大きな役割を果たしていただきたいと考えております。加えて、皆様ならではの現場目線でのご意見やご提案をいただくことで、より良い取り組みを一緒に模索していきたいと願っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Q 趣味や健康法について

学生時代から体を動かすことが好きで、ここ8年ほど登山に夢中になっています。週末には日常生活から離れ、自然の中でゆったりとした時間や静かな環境を堪能し、ときには自分の限界に挑戦したり、自身を見つめ直したりしています。九州の名山と呼ばれるところは制覇し、未踏のルートが減ってきたのは少し寂しいところです。職務の都合上、長期の休暇確保は容易ではありませんが、九州以外の山にも足を運び、新たな可能性を追い求めたいと考えています。



▲佐賀城下ひなまつり清掃 (R6年道守体験事業)

Q 地域建設業への要望・メッセージ

道路インフラの整備や維持管理をしていくのは大変な仕事です。整備や維持管理計画を立案するのは、我々など道路管理者ですが、現場で施工という形でボタンを受け取り、災害発生時には迅速な復旧作業に従事して下さるのは、地域建設業の皆様です。日ごろからのご尽力に心より感謝申し上げます。

今後も、私たちと一緒に「人命を守る」という理念のも

プロフィール



延岡市出身、58歳
H2年4月 建設省(現国土交通省)九州地方建設局
福岡国道工事事務所 採用
H24年4月 福岡国道事務所 有明海沿岸道路出張所
建設専門官
H29年4月 国土技術政策総合研究所 橋梁研究室
主任研究官
H31年4月 宮崎河川国道事務所 副所長

R3年4月 道路部 道路管理課長
R4年4月 九州道路メンテナンスセンター長
R6年4月 企画部 環境調整官
R7年4月 現職